



秩父地域が日本ジオパークに認定されました！

本 間 岳 史

平成 23 年 9 月 5 日午後、待ちに待った「秩父地域が日本ジオパークに認定された」との報が秩父市に入りました。推進協議会の会長である久喜邦康秩父市長は同日夕刻に市役所で記者会見し、吉報を披露して関係者と喜びを分かち合いました。また、秩父の大地の魅力を地域の子供たちや都市住民の皆さんへ伝え、地域全体の発展に全力を注いでいくとの決意を表明しました。そして、秩父地域の名称は「ジオパーク秩父」、メインテーマは「大地の守人^{もりびと}を育む ジオ学習の聖地^{メッセ}」に決まり、後日、秩父市役所や関係町役場の庁舎に懸垂幕が設置されました。

日本ジオパーク委員会の 9 月 5 日の審査では申請 6 地域（男鹿半島・大潟、磐梯山、茨城県北、下仁田、秩父、白山手取川）全員が認定され、日本ジオパークは 20 地域となりました。また、「隠岐ジオパーク」を世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟申請を行うことが決まり、本年 12 月 1 日までに GGN に申請することになります。9 月 17 日には、ノルウェーで開催された国際会議で「室戸ジオパーク」が新たに GGN に加盟認定され、国内では 5 地域となりました。

秩父地域では、一昨年²⁰²¹の 5 月に秩父市等が日本及び世界ジオパークの認定に向けて申請しましたが、テーマやストーリー、組織づくり、ガイドの養成、ジオツアーなどでの準備不足が指摘され、認定には至りませんでした。そこで秩父地域では、昨年 2 月に関係 30 団体で構成される「秩父まるごとジオパーク推進協議会」を組織し、以降、日本ジオパークの認定に向けて、ジオツアー、講演会、解説看板設置などの活動を積み重ねてきました。また、5 月の幕張でのポスター発表と公開プレゼンテーション、8 月の日本ジオパーク委員会の現地審査への対応など、できる限りの手だてを尽くしてきました。それだけに、2 度目の挑戦での今回の認定は、関係者にとって大きな喜びとなりました。

自然の博物館は推進協議会のメンバーの一人として、テーマやストーリーの提案、ジオサイ



秩父現地審査時に俳句を一句投じる尾池委員長

トの整理、ホームページのコンテンツ作成などに力を注ぎ、この夏以降は、特別展「秩父の大地は語る一地層と化石のドラマー」（会場：おがの化石館、小鹿野町と共催）や企画展「空から見た秩父&ジオサイト 50 選」（会場：長瀬町観光案内所、推進協議会主催）などを開催してきました。私は博物館内の担当者として、ジオツアーのガイドや講演会・研修会の講師をつとめたり、秩父地域のテーマやストーリーを提案することなどを通じて、いくらかでも認定に向けて貢献できたのではないかと考えています。

今回の認定はジオパークの設営に向けたひとつの重要なステップではありますが、認定されることが最終目的ではありません。オリンピックにたとえると、ようやく出場権を得ることができたようなものです。秩父地域もジオパークのスタートラインに立つことができたということで、いよいよ「ジオパーク秩父」としての具体的な活動を展開していかなければなりません。推進協議会では、今年度の事業として、主要なジオサイトの個別解説看板の設置（10 か所程度）やガイドブックの作成、ジオツアーの下見と実施を通じたガイドの養成などを計画しています。これらの作業には、1 市 4 町の教育委員会や博物館などが蓄積してきたノウハウを結集する必要がありますし、ジオツアーの実施には、NPO などの力が求められるでしょう。これからです。

（ほんま たけし・専門員兼学芸員）